

「大腸癌における手術の短期成績および長期成績に関する後ろ向き観察研究」

ご協力をお願い

近年、大腸癌に対する標準治療として腹腔鏡下手術が広がっており、さらに、2018 年より直腸癌に対してロボット支援手術が保険適応となりました。2022 年には結腸癌に対してもロボット支援手術が保険適応となりました。大腸癌に対する手術アプローチ法として、開腹術、腹腔鏡下手術、ロボット支援手術が選択肢となりうるが、周術期成績や予後を含めた長期成績において、どのアプローチ法が有用なのか未だ不明瞭な点があります。当研究により大腸癌症例におけるアプローチ方法を含めた治療方針の決定や治療成績の向上に寄与することができると考えます。

1. 実施施設および担当医師

京都第一赤十字病院消化器外科
京都第一赤十字病院消化器外科
京都第一赤十字病院消化器外科
京都第一赤十字病院消化器外科
京都第一赤十字病院消化器外科
京都第一赤十字病院消化器外科
京都第一赤十字病院消化器外科
京都第一赤十字病院消化器外科

栗生 宜明(責任研究医師)
藤田 悠司(分担研究医師)
小川 聡一郎(分担研究医師)
松尾 久敬(分担研究医師)
小西 智規(分担研究医師)
松本 順久(分担研究医師)
伊藤 駿(分担研究医師)
永守 遼(分担研究医師)

2. 研究の方法

当科で手術を施行した 2013 年1月から 2025 年 5 月 21 日までの大腸癌手術症例を対象として、手術を施行した大腸癌手術症例の背景因子及び治療成績に関して検討を行います。解析期間は倫理審査委員会承認日より 2035 年 12 月 31 日とします。抽出するデータは、以下の通りです。

① 関連情報:術後退院日数、合併症、画像所見、各種血液検査データ、病理診断結果、生存や再発に関する予後情報など

② 患者基本情報:性、年齢、罹病期間、身長、体重など

本研究の対象患者のデータを、所定のフォーマット(パスワード付きエクセルファイル)で一括して管理し、データの解析は京都第一赤十字病院消化器外科にて行います。情報は院内にて厳重に管理され、第三者への提供は致しません。本研究の結果は学会発表・医学論文として公表する予定です。

3. 患者様の利益・不利益(リスク)および同意取得

本研究では、通常の診療情報の解析のみを行うもので、患者様への利益も不利益も生じません。本研究への参加に関しては、本揭示をもって文書同意に代えますが、同意いただけない場合は、研究データへの組み入れを取り消しますので、下記までご連絡ください。その場合でも患者様に不利益は生じません。

4. 事務局・患者問い合わせ窓口

〒605-0981 京都市東山区本町15丁目749番地

京都第一赤十字病院 消化器外科

電話 075-561-1121(代表) Fax 075-561-6308

責任研究医師氏名 栗生 宜明(yoshiaki-kuriu@kyoto1.jrc.or.jp)